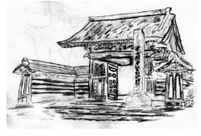
別院しらべ隊

調査報告書No.３　大門の現状

各別院の大門

北海道には旭川を含めて別院が六ヵ寺あります。各別院の大門は、どな形で大きさはどのくらいなのか、比較してみましょう。

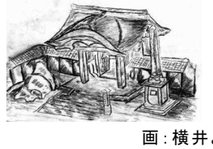


画：横井よ

札幌別院

間口…十九尺（5.757m）　奥行…十六尺六寸（5.029m）

８．７５７坪（２８．９５㎡）



画：横井よ

函館別院

資料が間に合いませんでした。

画：横井よ

根室別院

間口…十五尺（4.545m）　奥行…十二尺（3.636m）

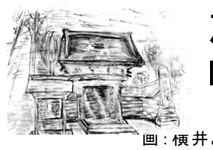
４．９９坪（１６．５２㎡）

画：横井よ

江差別院

間口…十二尺（3.636m）　奥行…七尺四寸（2.242m）

２．４６坪（８．１５㎡）



画：横井よ

旭川別院

間口…十九尺強（5.840m）　奥行…十六尺強（5.040m）

８．９坪（２９．４３㎡）

NO　PHOTO

帯広別院

帯広別院には大門はありません。

※高さでの比較は「屋根の角度・高さ」「柱の高さ」によって全て異なってしまうので、比較する基準を【間口（桁行）と奥行（梁間）の広さ（坪数）】で表記しました。

平成２２年３月１日制作　調査委員:草部・垣原・横井よ・高橋

花輪喜久蔵の苦労話

彼が気仙大工界の巨匠になるまでには、多くの苦労があった。十歳の時、綾里村の佐藤菊之亟の弟子となり日光東照宮などで見いをした後、山形県の仏師佐藤太助に弟子入りし、仏壇彫刻を修した。優秀な技術を身につけた彼は、建築請負業を志す。そして高尋常高等小学校（陸前高田市高田町）を請け負ったが、事件がこる。新築落成式を近日に迎えるばかりの矢先、火災で全焼したのった。契約期間内に竣工出来なかった彼は解約され、大きな負債出し、雇っていた職人達に支払いが出来なくなった。怒った職人達彼を簀巻きにし、川に放り込んだそうだ。

家も家族も捨て、新天地を目指し北海道札幌市に一人移住した毎日、他人の仕事現場での下働き。建築中の札幌農学校の現で働いたこともあるという。

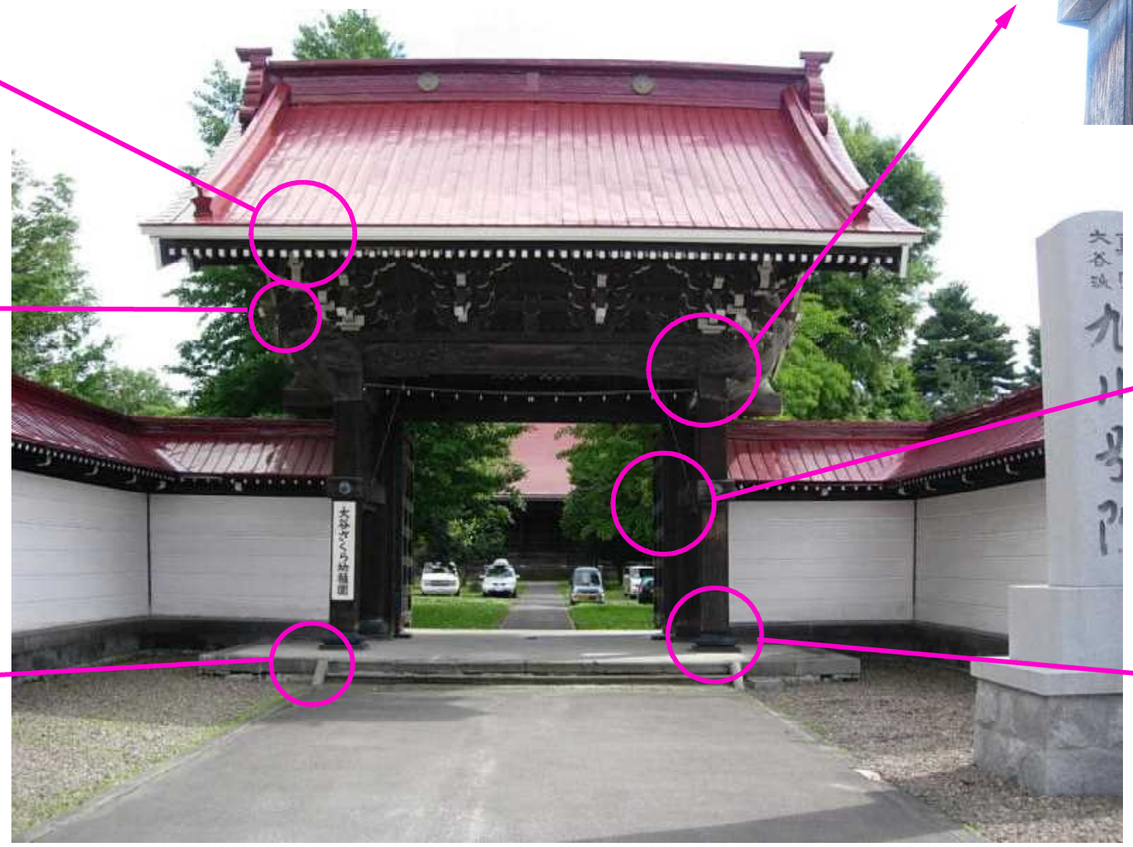
次第に地歩を固め、建築請負業の道を再び進み出した。文明化の波が北海道の建築業界に大きな影響を与える中、製図が来、緻密な施工を行う花輪組の名声が徐々にあがっていった。

彼は、成功したい一心で頑張ってきたが、仕事を奪われたと恨むも出てきた。作業開始のために昇った足場の縄が切れ、四メートル下の地面に落下、瀕死の重傷を負った。縄が切れた原因は、何者が縄に鋸で切り目を入れたためであった。明らかに、恨みをもつ者のがらせである。瀕死の重傷を負い、恨まれても、気仙大工界から姿消さなかったのは「生涯百か所の堂宮建立」の悲願を掲げていたかであろう。

【 今の大門の状況 】

マサ葺きが腐食しており
釘が利かない。

木部がやせて変形し
隙間がある。



菱欄間と柱に隙間がある。

金具に錆があり、木部が
やせて変形している。

段石の目地に沿ってひび割れ
が発生している。縁廻りの
モルタルが剥がれ落ちている。

柱が左回りにねじれている。

＊春季彼岸会（3月18~24日）の期間中、しらべ隊制作のDVDを放映します。今の大門の現状を見て下さい。放映場所は、新納骨堂1階と正面玄関です。

外塀のコンクリートブロックには鉄骨が入っていない。一部崩れている。